




第6学年 家庭科「すっきりさわやか 身の回り」

授業者 田中 明日香

<p>前時までの学び</p>	<p>学校の生活の場を「整理・整頓」「清掃」の視点で見つめ、様々な問題点を見付けました。前時は、道具箱の整理・整頓をして、工夫を見付けました。家の衣類の整理・整頓をしようと課題をもち、片付け方について自分の考えをもちました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p>	<p>補助黒板に掲示した学習計画や既習事項を見ながら課題を設定しました。本時の学習課題について「どうして衣類の整理・整頓をするのか」や「工夫を見付けるのはなぜか」などの課題設定の理由を前時の学習からのつながりや、生活に結び付けて説明し、課題の妥当性を共有しました。</p>  <p>前の時間は学校の道具箱を片付けたよ。家で自分の服も片付けたいから、整理・整頓の工夫を見付けたい。</p>
<p>学習課題：生活に合った衣類の整理・整頓の工夫を見付けよう</p>	
<p>〈課題解決中〉 2 グループで衣類の整理・整頓をする。 3 整理・整頓の工夫を交流し、再考する。</p>	<p>本時考えることは衣類の「畳み方」や「入れ方」であることを確認してから、家から持ってきた上の服、下の服、靴下をグループで話し合いながら3段ボックスに収納する時間を設定しました。その後、「畳み方」「入れ方」で色分けしたポップを配布し、収納の工夫を言語化して書いて貼る時間を確保しました。</p>  <p>袖のところを折って、半分に畳むよ。そうするとしわになりにくいよ。</p> <p>交流では、工夫を書いたポップを見ながら、なぜそうしたかの理由を尋ね合い、互いの工夫のよさを見付けました。その後、自分のグループに戻り、見付けた工夫を試したり、話し合ったりして、生活に生かしたい工夫について考えを深めていきました。</p> <p>どうして、立てて入れたの。</p> <p>出すときのことを考えているのがいいね。私も立てて入れるのをやってみたいな。</p> <p>立てて入れた方が、見付けやすいし、出すときも、他の服がくしゃくしゃにならずに済むからだよ。</p>
<p>〈課題解決後〉 4 本時の学びを振り返る。</p>	<p>本時の学習を「分かった（できるようになった）こととその理由」「生活に生かしたいこと」の観点で振り返りました。「分かった理由」の観点での振り返りを習慣化することで、協働のよさを実感したり、家庭科学習での学び方（家の人に聞くや試してみるなど）の価値を自分で見付けたりして、家庭科の授業中に生かしていく姿が見られました。</p>  <p>友達の意見を聞いて、取り出しやすいように立てて入れるのがいいと思いました。家では、仕切りも使ってやってみたいです。</p>
<p>考察</p>	<p>毎時間の振り返りの観点に「生活に生かしたいこと」を位置付け、課題設定でも意識させたことで、常に生活とつないで考える子供の姿が見られた。整理・整頓の工夫を交流する際は、工夫のよさを尋ね合って自分の生活に合ったよりよい方法を考えていくという目的意識をもたせてから取り組ませる必要がある。</p>